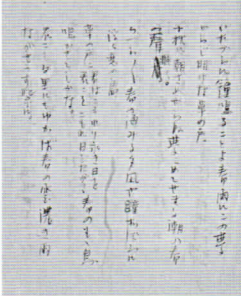


小山市立博物館 博物館だより

2021
9.15

73

自筆短歌(年不詳・田波家文書)



自筆サインと印「無村俳句集」
(年不詳・田波家文書)

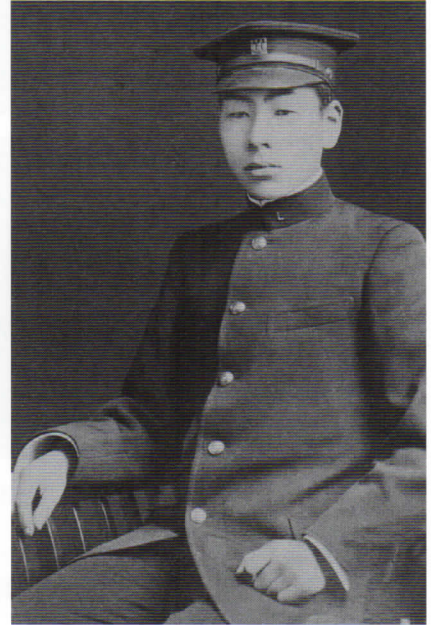


枯草の上にしづかに寝ねてあり、木の
葉ちり来よ、われをうづ埋めよ。
わが頬ふき君が頬をふき春風は三味線
草をならさですぎぬ

君思ふに昨日は疲れ今日はまた思はむ
人のなきに疲れぬ

いろいろのかなしきことをとりあつめ
闇にまぎれてなくをうれしむ

七里ヶ浜海心なく高鳴りて秋ゆくころ
に人を死なしむ



田波御白 肖像
(東京帝国大学在学中)

第75回企画展 「歌人 田波御白 — 生きむとす —」

令和3年10月30日(土)～12月12日(日)

田波御白 — たなみみしろ

故郷は小山市南小林。本名は庄蔵。
明治18(1885)年11月8日に生まれ、
大正2(1913)年8月25日に亡くなった。
その生涯は27年と10ヶ月あまりだった。
栃木中学のとき初めて雑誌に短歌を投稿。
金子薫園を師匠とし作歌にのめりこむ。
没頭しすぎたか、中学を落第。
第一志望の高校受験にも失敗。
それでも歌は作り続けた。
一途な恋をした。その恋は叶わなかった。
大学の卒業間際に肺結核にかかる。
神奈川の療養所で2年の闘病生活を送る。
生と死の間でしばりだすように歌を作り続けた。
七里ヶ浜から最期まで故郷を思っていた。

御白の生涯をたどり、その歌の魅力をもっと多くの
方々に知っていただくため企画した展示会です。

記念講演会

講師 歌人 外塚 喬 氏
朔日短歌会代表/現代歌人協会副理事長

演題 「田波御白の人と作品」

日時 令和3年11月14日(日)
13:30～15:30

場所 博物館視聴覚室

※申し込みは10月10日から電話にて。先着30名程度。

入館料

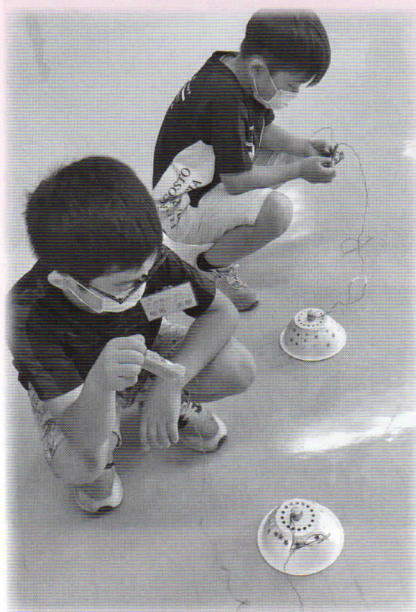
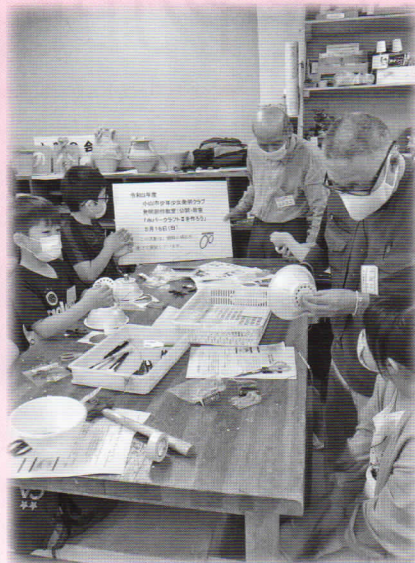
一般200(100)円/大学・高校生100(50)円/
中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金
※無料公開日: 11月3日[文化の日]・11月7日
11月23日[勤労感謝の日]

休館日

毎週月曜日・第四金曜日・祝日の翌日
※11/1・4・8・15・22・24・29・12/6

「人の役に立ちたい」が原動力

古今東西、人類の夢を実現し、その発展にとってかけがえない創造力の成果が発明です。栃木県で唯一の「少年少女発明クラブ」は、小山市立博物館で1月から12月までの月2回、36名の子どもたちと10名のベテラン指導員の先生方で楽しく活動しています。今年度も恒例の科学技術週間『発明の日・発明創作教室』を実施し、モーターと電池、プロペラを利用した「ホバークラフトⅡ」を作りました。5年前に「ホバークラフト」を作成したときに、全体の重さや空気の対流がうまくいかずスムーズに動かない反省点を改善し、上部に穴を開けたり、リモコン形式にして重量を軽くしたりする工夫をしました。失敗を生かして工夫・改善することは発明にとって大切なことですね。



完成したホバークラフト

さて、発明にはそれにまつわる人々の出来事の様々なエピソードがあります。努力、偶然、幸運、不運など、そこには人間のドラマがあります。

今回は、インスタントラーメンの生みの親「安藤百福」さんのおはなしです。安藤さんは戦後の食糧難の時代、寒い冬の夜にラーメンを食べるために長い行列ができているのを見て、「家庭で簡単に調理できて、いつでも手軽に食べられるラーメンを作ろう!」と考えました。事業に失敗し全財産を失ってしまった安藤さんですが、『何か人の役に立ちたい』という情熱を武器に開発を始めます。苦労したのは、味付け麺を長期間、常温で保存することでした。ある時、奥さんが天ぷらを揚げているのを見て“天ぷらの原理を応用して麺を乾燥させればよい”とひらめきました。この方法が『瞬間湯熱乾燥法』です。この方法で生まれたチキンラーメンは「魔法のラーメン」と評判になり、瞬く間に爆発的な人気を集めたのは周知の通りです。

コラム 博物館職員雑記

指導主事 黒川 直毅

博物館に来てから、昆虫教室、両生類展、川の生き物観察会など生き物に関わることが多くなりました。昆虫教室では子どもたちからいろいろなことを質問されますが、意外にも食べられるかどうか質問してくる子が何人もいます。日本では日常的に昆虫食していませんが、昔からイナゴの佃煮やハチノコ（蜂の子）などのように、一部の地域において食文化として残っています。世界では・・・という実は多くの国で昆虫食が行われています。タガメ、コオロギ、セミ、ゲンゴロウ、アリやガの幼虫など様々な昆虫が世界中で食べられています。有名な「ファーブル昆虫記」でもムネヒロウスバカミキリの幼虫を試食する内容が書かれています。

昆虫は栄養価が高く、特にタンパク質やビタミンといった栄養素が多く含まれているため、美容と健康に良いとされています。アメリカでは昆虫食がスーパーフードとして注目を集める中、国内でも昆虫食レストランが増えており、昆虫食ブームになりつつあるそうです。健康と美容に意識の高い方、昆虫食に興味のある方はチャレンジしてみてもはどうですか。

今年の夏はカエル！

栃木県立博物館地域移動博物館

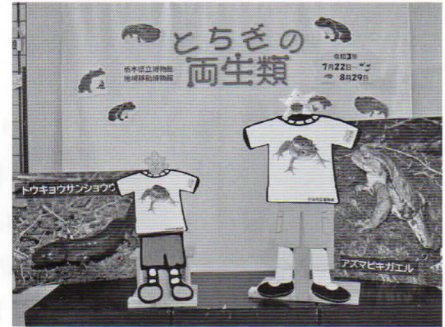
「とちぎの両生類」

～この子の名前、なんていうの？～

【開催期間】 令和3年7月22日（木）～8月29日（日）

身近なところにも暮らしているカエル。カエルを知らない人はいませんよね。でも意外と知られていないカエルの生態や種類。そんなカエルの仲間たち「両生類」について、もっとよく知ってもらおうということが、今回の展示の目的です。栃木県に生息するカエル類13種、イモリ・サンショウウオ類5種について、どのような姿をしているのか、どのような場所に暮らしているのかを紹介しました。

コロナ禍ではありましたが、夏休みということもあり、子どもたちを中心に多くの方にご来館いただきました。たくさんの標本にじっくり見入ったり、鳴き声ソフトでさまざまなカエルの鳴き声を聞いたりする姿が見られました。また、エントランスの生体展示のアカハライモリやアズマヒキガエルも人気でした。今回の展示をきっかけに、カエルはもちろん、身近な生き物に興味をもってもらえたらうれしいです。



春の企画展「日光山と小山」関連講座

「日光彫り体験」を実施しました

企画展「日光山と小山」の関連講座として「日光彫り体験」を開催しました。今回は、日光木彫りの里工芸センター所属で伝統工芸士の小栗重子先生・片山久子先生・加藤芳子先生をお招きして、ご指導いただきました。

日光彫りは、日光山内の建築美を支えた名匠たちによって高い技術が伝えられてきたとされる伝統工芸品で、日光堆朱と呼ばれる漆塗りの盆などに、「ひっかき」と呼ばれる独特

の彫刻刀を手前に引くようにして彫り進めます。刃の大きな「ひっかき」に最初は戸惑いますが、慣れてくると一般的な彫刻刀よりも強弱がつけやすく、大きな力も必要ありません。

同じ下絵から彫り出したものでも参加者の個性が出るできばえに、皆満足された様子でした。特に子どもたちは驚くほどに伸び伸びと力強く、大胆な作品を作り上げていました。



「ひっかき」



桑57号墳出土の鈴について

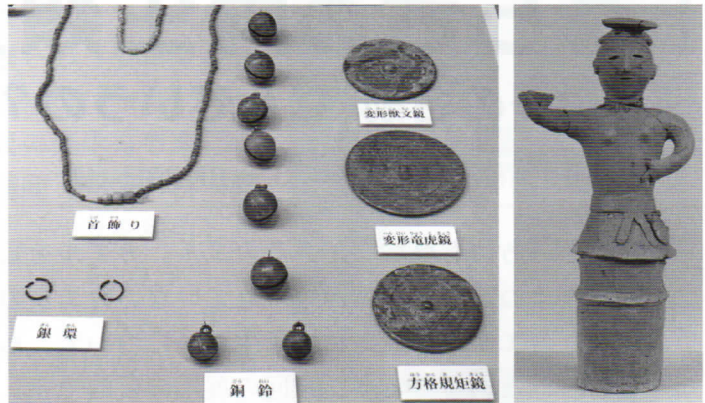
鈴は、古くから使われていました。縄文時代中期(約5000年前)の釈迦堂遺跡(山梨県)からは、中に2～5個の小さな土玉を入れた土鈴が見つっています。では、金属製の鈴はいつ頃から使われるようになるのでしょうか。弥生時代には、釣鐘を扁平にしたような形の銅鐸が作られるようになりますが、鈴は見つかりません。

古墳時代に、銅製の鈴の製法が大陸から朝鮮半島を経て日本に伝わり、球状中空で

中に銅玉や小石が入れられ、胴体に細長い切れ目がつけられた、今のものとほとんど変わらない形の鈴が作られるようになります。この時代の鈴はバリエーションがとても豊富で、鈴単体ばかりではなく、鏡の縁や、馬具に直接つけたりしています。とくに馬具に付けられた遺物がたくさん出土しており、日本では5世紀ごろから始まる乗馬の習慣と鈴の普及には強い関係性があると考えられます。

さて、本館に常設展示されている桑57号墳出土遺物のなかに、直径が約3cmのもの6個と、直径約2.4cmのもの2個の、合計8個の鈴があります。大小どちらの鈴も本体は球状中空ですが、よく見ると大型の鈴の鈕(吊り紐を通す突起)は方形で、小型のものは円形であることがわかります。この形状のちがいは、鑄造技術の差によるものなのでしょうか。それとも、鈴の付けやすさや良い響きを求めた結果なのか、いろいろ想定はできそうです。

このような鈕を持つ鈴は、馬形埴輪などに表現されているように、馬具につけられたものと考えられています。しかし、桑57号墳からは、鈴は発見されましたが、馬具は見つかりません。この8個の鈴がどのような役割を果たしたのか、残念ながらよくわかってはいないのです。



桑57号墳出土銅鈴

腰に五鈴鏡をつけた巫女

🐦 博物館公式ツイッター(Twitter)をご利用ください。

展示会や講座、ほっしー★OYAMA号の観望会情報など、博物館に関わる情報を発信しています。

アカウント名：小山市立博物館 ユーザー名：@Oyama_Museum

URL: https://twitter.com/Oyama_Museum



アイコンはほっしーです

※本アカウントは情報発信専用です。お問い合わせは下記の電話番号やHPのお問合せフォームをご使用ください。

寄贈者芳名

次の方から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

■ 宇野 洋一 (小山市) 植物標本 1式

■ 神山 忠士 (小山市) 昆虫標本 1式

発行年月日 令和3年9月15日

発行 小山市立博物館 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)

〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7

電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247

H P <https://www.city.oyama.tochigi.jp/site/hakubutukan/>

印刷 株式会社ダイサン小山

